

床木ダム

YUKAGI DAM



佐伯土木事務所
床木ダム管理事務所

大分県

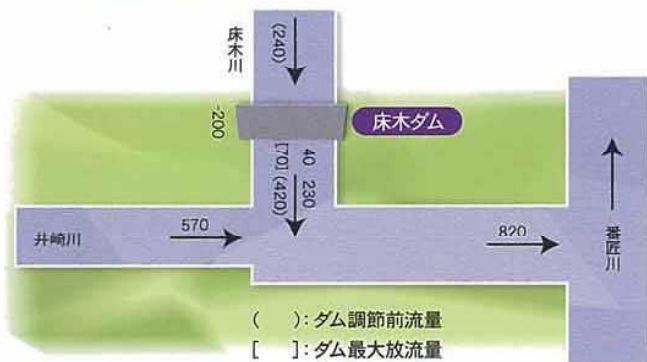
事業の概要

床木ダムは、昭和45年度から県単調査費により予備調査を開始し、地形地質、水文調査等を進め、昭和48年度実施計画調査、昭和51年度建設事業着手、昭和61年に完成しました。

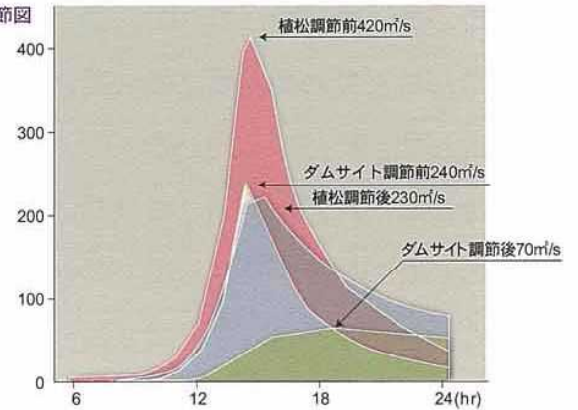
(イ)洪水調節

ダム地点の基本高水流量 $240\text{m}^3/\text{s}$ のうち $200\text{m}^3/\text{s}$ の洪水調節を行い、井崎川ならびに床木川流域弥生町の洪水を軽減します。

計画高水流量配分図(単位 m^3/s)



洪水調節図



(ロ)不特定用水の確保

井崎川ならびに床木川下流沿岸 56.1ha の耕地に対するかんがい用水の補給、流水の正常な機能を維持します。

洪水防除区域の資産

(全体計画策定当時)

氾濫防止面積	206ha		
氾濫防止市町村名	大分県南海部郡弥生町		
区域内人口	3,715人	鉄道	—
家屋	1,216戸	国道	3.0km
田	103.7ha	県道	5.1km
畑	69.2ha	市町村道	6.0km
その他の主要施設	小学校2	事業所118	

(1) 事業の必要性

床木川流域の平均年雨量は約2,000mmで、そのほとんどが台風の影響によるものです。急峻な山地と細長い平野部は一度降雨があれば水害発生の大きな原因となっており、特に昭和41年8月の19号台風による被害は床上浸水18戸、床下浸水92戸、田の流出が0.8ha、畑の流出1.0haと大きいものでした。その後改修工事が徐々に進められていますが、地元住民の間から抜本的治水対策が強く望まれていました。その一貫として床木川上流部に洪水調節を行い、かんがい補給を行うダムを築造しました。

(2) 流域の概要

床木川は大分県南部を東西に流れる一級河川番匠川水系井崎川支川で、南海部郡弥生町の中心部を貫流しています。本川はその源を彦岳(標高639m)に発し、途中井崎川に合流し番匠川に注ぐ流域面積19.4km² 流路延長10.7kmの河川です。

本流域は県下でも年間降雨量の最も多い区域であり、その大部分が台風の影響によるものです。流域は温暖多雨の気候であり、全般的に林相は良好です。

(3) ダム計画の諸元

●ダム ダム地点/大分県南海部郡弥生町大字床木

形式/重力式コンクリートダム
 堤頂高/EL. 111.000m
 基礎岩盤高/EL. 52.500m
 堤高/ 58.500m
 堤頂長/ 249.000m
 堤頂幅/ 4.000m
 堤敷幅/ 60.000m
 堤体積/ 217.500m³
 洪水放流設備/洪水吐 2.30m×13.50m×10門
 オリフィス 2.10m×2.10m×1条

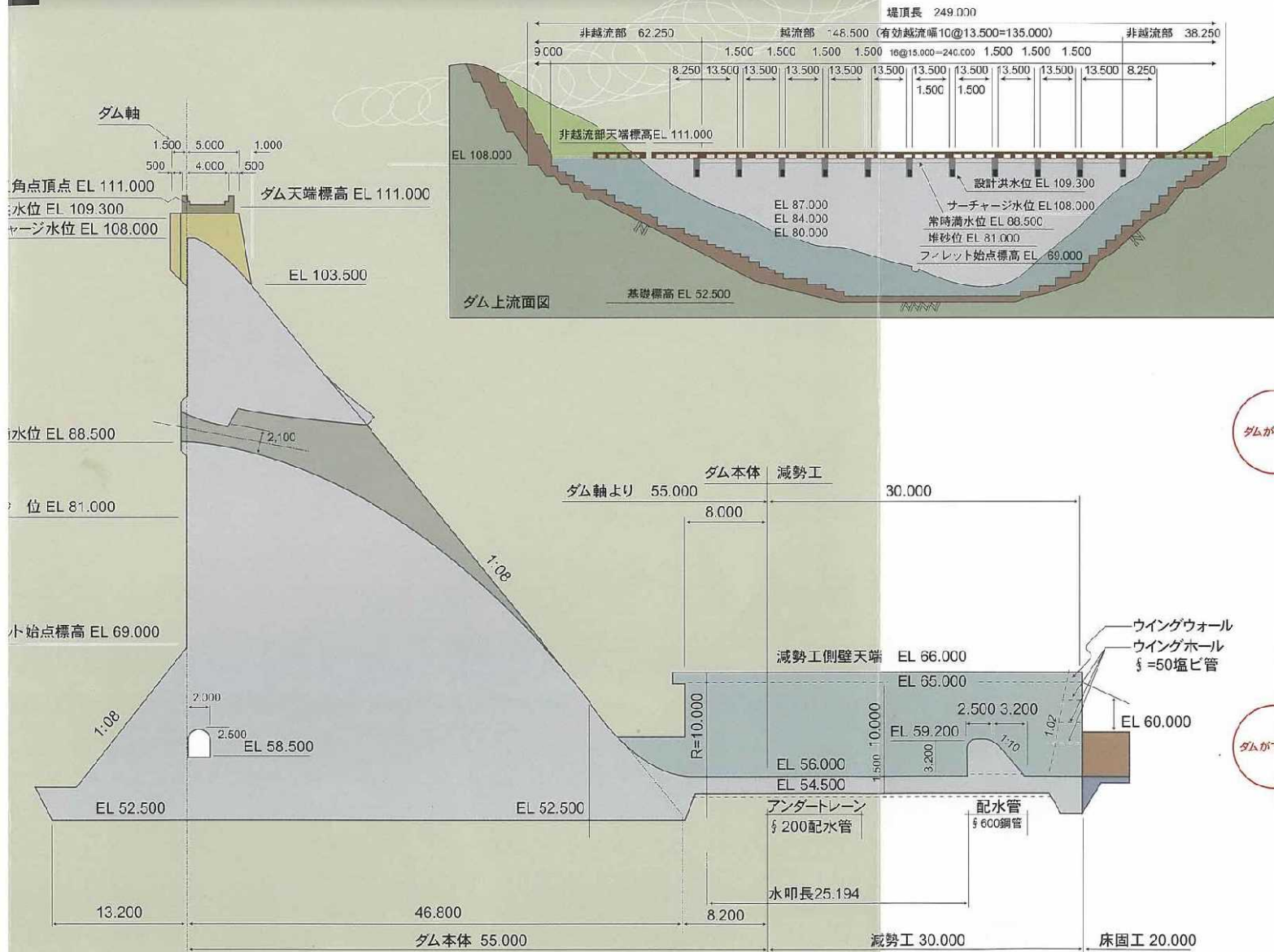
●貯水池

集水面積/10.0km²
 湛水面積/ 0.18km²
 設計洪水位/EL.109.300m
 サーチャージ水位/ EL.108.000m
 常時満水位/EL. 88.500m
 堆砂位/EL. 81.000m
 総貯水量/3,520,000m³
 有効貯水量/3,120,000m³
 洪水調節容量/2,630,000m³
 不特定容量/ 490,000m³
 堆砂位/ 400,000m³

年度別事業費

年度別 事業費 (千円)	昭和 48年度	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	合計
		16,000	2,6000	20,000	100,000	200,000	720,000	650,000	620,000	768,000	1880,000	1900,000	2,200,000	2,000,000
	実施調査			建設				ダム本体						

cross section

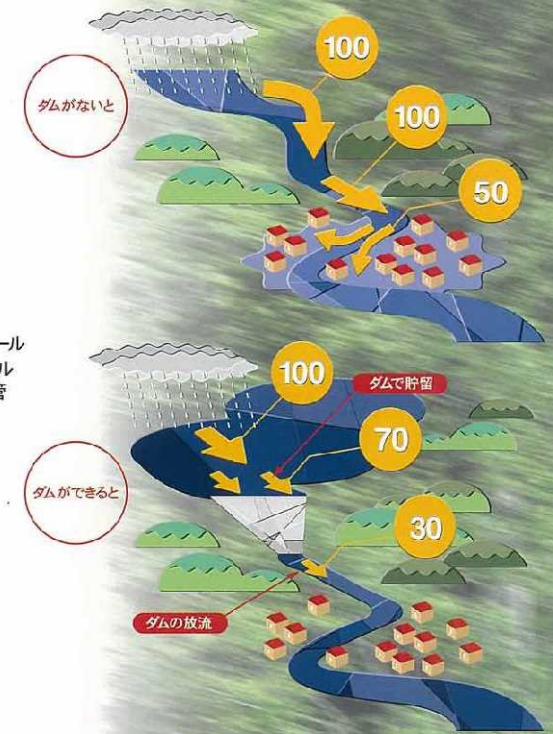


大きな洪水のときに河川は氾濫。
これを上流のダムで洪水を貯め
洪水を軽減。

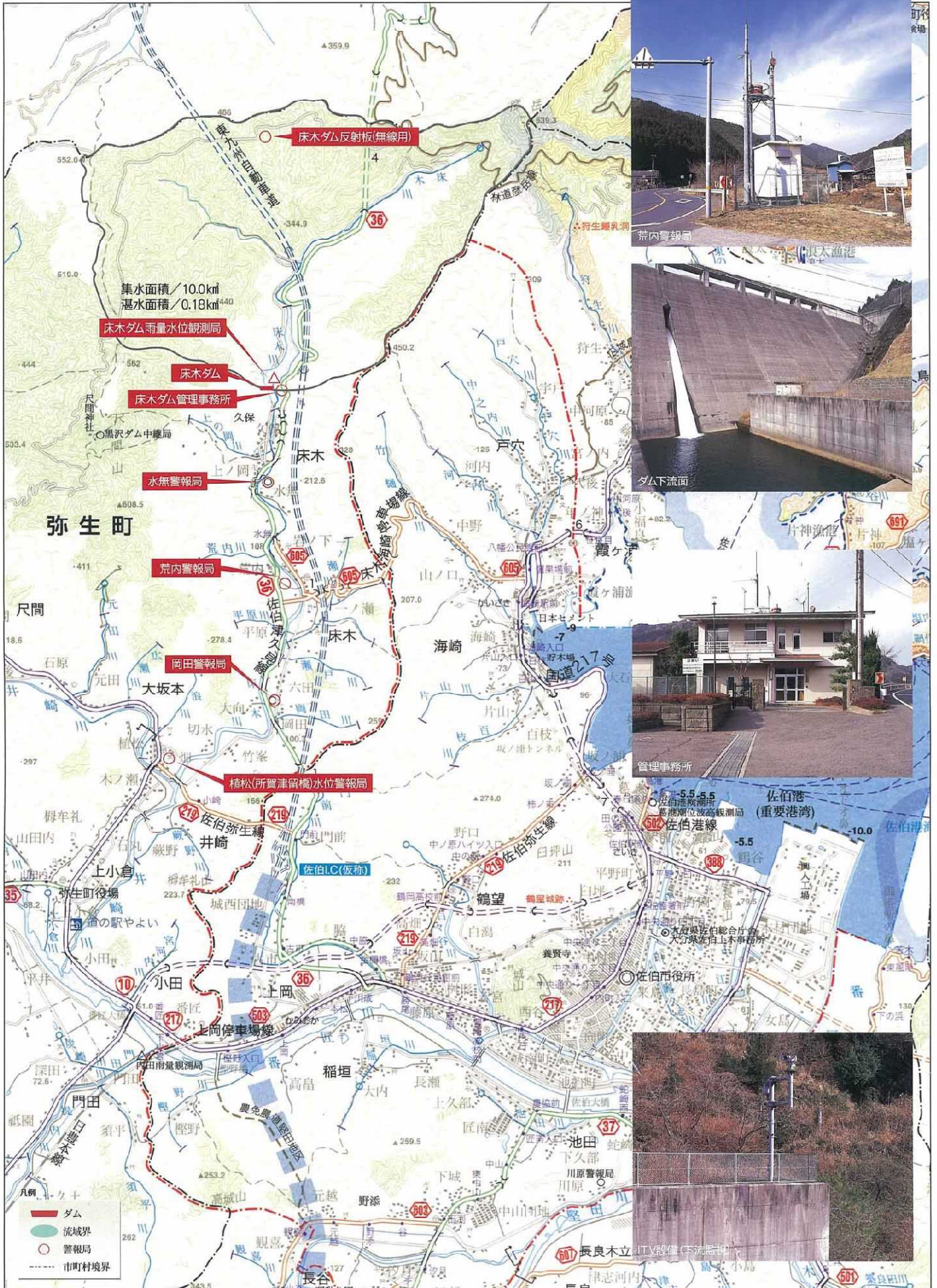
ダムの効果

人が多く住んでいるところでは、あまり大きな川幅はとれませんし、あまり高い堤防も作れませんので、大きな洪水のときには氾濫してしまいます。

これを上流のダムで調節することにより、洪水を軽減します。



計画一般平面図



位置図



右岸よりダムを望む



河道からの展望

佐伯土木事務所

〒876-0813 佐伯市長島町1-2-1 佐伯合同庁舎内
TEL0972-22-3171(代) FAX0972-22-9543

床木ダム管理事務所

〒876-0103 南海部郡弥生町大字床木字ホドハル1852-2
TEL0972-46-0164